

着衣する身体と 女性の周縁化

武田 佐知子 編

▶ A5判・480頁／定価 6,090円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1616-1

2012年4月刊行

着衣という共通の素材を通して、さまざまな社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、衣服と身体の表象について解き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。

内容目次

第I部 民族/伝統衣装とファッション

- 民族衣装における異装と共装 武田佐知子(大阪大学教授)
 日本中世の着衣—能楽の女装束を中心に— 脇田晴子(石川県立歴史博物館館長)
 チベット文化圏の服飾について 森田登代子(桃山学院大学非常勤講師・国際日本文化研究センター共同研究員)
 「超民族衣装」カンガの今とこれから—スワヒリ地方における着衣の実践— 竹村景子(大阪大学准教授)
 啓蒙専制期のマドリッド社会と女性の衣服 中本香(同上)
 差異の標本としての「伝統衣装」 井本恭子(大阪大学准教授)
 1920～30年代のソビエト・ファッション 藤原克美(大阪大学准教授)
 Sex and the Cityとポストモダン消費文化
 —サラ・ジェシカ・パーカー/キャリー・ブラッドショーをめぐる
 ファッション、身体、ファンダム— 吉岡愛子(上智大学・青山学院大学非常勤講師)

第II部 異装・共装

- 衣装と近世女性医師 太田妙子(大阪大学教授)
 組掛—天皇・家元・武家をつなぐ紐 津田大輔(滝川高等学校教諭)
 唐代における宮女の男装について 矢田尚子(東北大学助教)
 着衣の媒介性と喚起力—死者の着衣とクレオール^①の着衣をめぐる— 宮原暁(大阪大学准教授)
 魔女は何を着て踊っていたのか 牟田和男
 —フェルステンベルク伯領の魔女裁判における着衣—



※所属は2012年3月現在



第III部 着衣する身体

- 禁じられた着衣—国家そしてタイ人の着衣と身体に対する考え— 宮本マラシー(大阪大学教授)
 ムスリム女性のパルダ護護論
 —ポーランド藩王国女性藩王スルターン・ジャハーン・ペーガムの『ムスリム女性の
 悩み』について— 松村耕光(同上)
 イランのヒジャーブと女性—政治・法律・個人— 藤元優子(同上)
 近世イタリア絵画におけるエロティックな足先
 —ランフランコ作《音楽の寓意》あるいは「チョコピンを履くウエヌス」— 新保淳乃(千葉大学大学院特別研究員)
 在満亡命ロシア女性の着衣の表象—コロニアル・モダニティの視点から— 生田美智子(大阪大学教授)
 甲子園のパンチラー女子応援団から見る高校野球の歴史— 池川玲子(実践女子大学非常勤講師)
 戦後女性の着衣・割烹着と白いエプロン—分断される身体・連続する母性— 身崎とめこ(ジェンダー文化研究所研究員)

第IV部 表現する身体

- 理想化される女性の身体像—自己対象化から考察するスリム・ダイエット志向— 三好恵真子(大阪大学准教授)
 リカちゃん人形の身体表象への欲望—着替える身体から着替えない身体へ— 山崎明子(奈良女子大学助教)
 着衣する身体、演じる身体 福岡まどか(大阪大学准教授)
 —インドネシアの女方舞踊家ディディ・ニニ・トウオによる
 「クロス・ジェンダー」の試み—
 魂の表出の場か?外界の映し鏡か?自然の一部か?
 —マイケル・ジャクソンに見る身体の多義性に関する解釈論— 深尾葉子(大阪大学准教授)
 帝政ロシア時代におけるマトリョーシカの創造
 —ナショナリズムとジェンダーの身体— 福間加容(千葉大学非常勤講師)
 異性装と身体意識—女装と女性化の間—^{あおい} 三橋順子(都留文科大学非常勤講師)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
 http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	着衣する身体と女性の周縁化	本体5,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1616-1	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

※布がつくる社会関係

金谷美和著

インド絞り染めの布とムスリム職人の民族誌

染色業者カトリート、カトリートの生産する布について民族誌的記述を行うことで、布の生産で構築される社会関係と、布の使用で構築される社会関係について明らかにする。絞り染め布のもつ物質性への注目を喚起することによって、布を視点として社会を分析するという文化人類学的研究の新たな可能性を拓くことを目指した意欲作。

▶A5判・330頁/定価6,510円

ISBN978-4-7842-1341-2

※花洛のモード きものの時代

京都国立博物館編

装いの美・華と粋の世界一桃山から江戸時代を通じて服飾の中心となった「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・胴服・羽織・具足下着・振袖・帷子などから簀・簪・髪形、さらには肖像画・洛中洛外図・屏風などに描かれたモードも含めて全225点(オールカラー)を収録。「今様御ひなかた」(翻刻)と「御用雛形帳」の調査一覧表も併載。

▶A4判・550頁/定価26,250円

ISBN4-7842-1072-5

日本文学の「女性性」

増田裕美子・佐伯順子編

二松学舎大学学術叢書

日本文学の根底にある「女性性」を、「純文学」からライトノベルまで多様な角度からアプローチした9論文を収録。【内容】三島由紀夫『朱雀家の滅亡』ジェンダーの観点から一戦前日本における家庭の抑圧の光景―/「母の涙」の二重性―敗戦後文学としての『二十四の瞳』―/少年同士の絆―あさのあつこ「バッテリー」をめぐる欲望と暴力 他

▶A5判・232頁/定価2,415円

ISBN978-4-7842-1549-2

逆欠如の日本生活文化

園田英弘編著

日本にあるものは世界にあるか

西洋にあるものが日本にはない「欠如」という観点からではなく、出発点を日本においた「日本にあるものは世界にあるか」という新たな方法論に基づく文化比較14篇。「制度」も内包する広い意味での生活文化のうち、日本に固有と思われる現象について国際比較することにより、鮮やかに見えてくる特性。

▶A5判・404頁/定価3,990円

ISBN4-7842-1248-5

※知の伝達メディアの歴史研究

辻本雅史編

教育史像の再構築

「学校困難」の21世紀、教育はどこに向かうのか。本書では、「教育」を「知の伝達」ととらえ直し、その伝達のための媒体を「メディア」と規定することで、これまでのような、学校を中心とした教育史像ではなく、学校を含みながらも、学校を越えたところでなされる人間形成の営みを、全体としてとらえなおす視点を提示する。

▶A5判・300頁/定価5,985円

ISBN978-4-7842-1500-3

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

作品が難解であるなどの理由で、従来全面的な研究がなされてきたとは言いがたい幸田露伴とその膨大な作品群。そこでさまざまな分野の研究者が集まり、小説や評論など文学面はもちろんのこと、都市・遊技・人生論などの著作を通じて多様な角度から露伴にアプローチする。国際日本文化研究センター共同研究の成果13篇。

▶A5判・318頁/定価5,250円

ISBN978-4-7842-1444-0

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、近代化の歩みを支えた産業技術史を俯瞰する読む事典。【項目】機械/素材/産銅業/石炭産業/動力と動力システム/鉄道と船/航空機と自動車/情報・通信/生産技術/農業・林業・漁業/食品加工業/繊維と衣服/耐久性消費財/建築とデザイン/環境技術/学協会と技術者集団/技術者教育/研究開発機関 他

▶B5判・550頁/定価12,600円

ISBN978-4-7842-1345-0

視覚の一九世紀 人間・技術・文明

横山俊夫編

視覚という世界の広がりや視覚メディアを中心とした19世紀の文明史的研究。【内容】「文明人」の視覚/平地劇から舞台劇へ/蔵書家の視界/ナポレオンのコルベール/明治写真真考/オーストラリアの博覧会におけるジャパン/巨船グレート・イースタンの視像/真山青果の歴史観を求めて/チョンキナ/富士の近代/病いの世紀 他

▶A5判・464頁/定価6,090円

ISBN4-7842-0700-7

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介する。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34編。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。

▶A4判・150頁/定価2,940円

ISBN4-7842-1087-3

※美女の図像学

川本皓嗣編

人体や容貌の美は、さまざまな文化の中で、それぞれの芸術的表現を与えられてきた。本書では、日韓中米の新進気鋭の五人が、女性描写の伝統と美の思想を論じる。【内容】光の女(佐伯順子)/ヒロインの図像学(伊相仁)/影の女(アダム・カバット)/ムスメたちの系譜(満谷マーガレット)/藤籠の美学(張鏡)

▶A6判・300頁/定価3,465円

ISBN4-7842-0820-8

京都の女性史

京都橋女子大学女性歴史文化研究所編

平安時代から近代まで、京都に生きた女性に視点を据えた論文8本を収める。京都橋女子大学(現・京都橋大学)女性歴史文化研究所に所蔵されている『遊客名簿』の分析を通してこれまであまり取り上げられてこなかった近代京都の遊郭について明らかにした論文など、最新の研究成果が盛り込まれている

▶A5判・242頁/定価2,520円

ISBN4-7842-1123-3

焼畑の環境学 いま焼畑とは

佐藤洋一郎監修/原田信男・鞍田崇編

焼畑は本当に環境破壊の要因なのか。歴史・地理・民俗・農学それぞれの観点から、アジア・アフリカ各地で伝統的に行われてきた焼畑の実態を報告。先人の経験知の宝庫ともいべき焼畑を検証することによって、農業へ新しい知見を提示し、農業と環境、ひいては人と自然の関係を問直す。

▶A5判・608頁/定価9,450円

ISBN978-4-7842-1588-1

百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

和歌・文芸の領域はもちろん、日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりやをさぐる。それぞれのテーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵(16頁)収録。

▶B5判・178頁/定価2,520円

ISBN4-7842-1223-X

※鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気=鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光(巡礼)・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁/定価5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

※万国博覧会の研究

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識を支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、博覧会の諸相を明かす学際的研究。【内容】博覧会時代の背景/万国博覧会と日本の「美術工芸」/菊と万国博/パリ博覧会日本館・1937/博覧会と大量生産技術の移転/博覧会と特許 他

▶A5判・374頁/定価6,825円

ISBN4-7842-0414-8

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

さまざまな局面において独自性にみちた文化的発展をみせ、近代化に多大な影響を与えた、日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁/定価8,925円

ISBN978-4-7842-1580-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。